

# 分析結果報告書〔 4 〕 1 / 2

## 1 . 4 排水試料( TOC )

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1 . ISO 9001 ~ 9003 2 . ISO/IEC 17025(ガ 1 卜 25) 3 . M L A P 4 . 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5 . (上記 1 ~ 4 を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	( ) 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	( )
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1 . あり 2 . なし

回数	分析結果 (mg/L) 注 1 )	
	検出下限値以上 注 2 )	検出下限値未満での検出下限値 注 3 )
1 回目		
2 回目		
3 回目		

注 1 ) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。

注 2 ) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字 3 桁で記入する。

注 3 ) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字 1 桁で記入する。

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

分析方法	1 . TOC 分析法 (JIS K 0102 の 22.1 に該当) 2 . TOC 自動計測法 (JIS K 0102 の 22.2 に該当) 3 . その他 ( )
分析方法 (原理 1 )	1 . 全炭素と無機体炭素をそれぞれ測定し、全炭素から無機体炭素を差し引き有機体炭素 (TOC) を算出する方法。 2 . 試料中から無機体炭素を除去した後、有機体炭素 (TOC) を測定する方法。 3 . その他 ( )
分析方法 (原理 2 ) 酸化の方式 (二酸化炭素とする方式) 二酸化炭素の定量	1 . 燃烧酸化法 2 . 高温湿式酸化法 3 . 紫外線酸化法 4 . 光触媒酸化法 5 . その他 ( ) 1 . 赤外線分析法 2 . 熱伝導度測定法 3 . ガス透過膜式熱伝導率測定法 4 . その他 ( )
使用した水	1 . 蒸留水 2 . イオン交換水 3 . 超純水 4 . その他 ( )

< 測定 >

TOC 計 メーカー 型式	( ) ( )
全炭素の測定 注 1 ) 試料の希釈 試料 (又は希釈試料) の注入量	希釈倍率 ( ) 注 3 ) ( ) $\mu$ L
無機体炭素の測定 注 1 ) 試料の希釈 試料 (又は希釈試料) の注入量	希釈倍率 ( ) 注 3 ) ( ) $\mu$ L
有機体炭素の測定 注 2 ) 無機体炭素の除去方法 試料の希釈 試料 (又は希釈試料) の注入量	1 . 酸を加えて通気 (ばっ気) 2 . その他 ( ) 希釈倍率 ( ) 注 3 ) ( ) $\mu$ L

注 1 ) 全炭素と無機体炭素を測定して、計算により有機体炭素 (TOC) を求めた場合には、全炭素と無機体炭素の欄に記入し、有機体炭素の欄は記入しない。

注 2 ) 無機体炭素を除去した後に有機体炭素 (TOC) を測定した場合には、有機体炭素の欄に記入し、全炭素と無機体炭素の欄は記入しない。

注 3 ) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

# 分析結果報告書〔 4 〕 2 / 2

< 検量線の作成等（全炭素）注 1 ） >

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1．絶対検量線法 2．標準添加法 3．内標準法 ( )
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	( ) 最小 ( ) ~ 最大 ( ) mg/L ( )
試料の指示値	1 回目 ( ) 注 2 ) 2 回目 ( ) 3 回目 ( )
空試験の指示値	( ) 注 3 )
検出下限値	( ) mg/L 注 4 )

注 1 ) 全炭素と無機体炭素を測定した場合（計算により有機体炭素（TOC）を求めた場合）に記入する。

注 2 ) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注 3 ) 標準添加法では記入しない。

注 4 ) 試料中の濃度（mg/L）を示す。

< 検量線の作成等（無機体炭素）注 1 ） >

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1．絶対検量線法 2．標準添加法 3．内標準法 ( )
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	( ) 最小 ( ) ~ 最大 ( ) mg/L ( )
試料の指示値	1 回目 ( ) 注 2 ) 2 回目 ( ) 3 回目 ( )
空試験の指示値	( ) 注 3 )
検出下限値	( ) mg/L 注 4 )

注 1 ) 全炭素と無機体炭素を測定した場合（計算により有機体炭素（TOC）を求めた場合）に記入する。

注 2 ) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注 3 ) 標準添加法では記入しない。

注 4 ) 試料中の濃度（mg/L）を示す。

< 検量線の作成等（有機体炭素）注 1 ） >

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1．絶対検量線法 2．標準添加法 3．内標準法 ( )
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	( ) 最小 ( ) ~ 最大 ( ) mg/L ( )
試料の指示値	1 回目 ( ) 注 2 ) 2 回目 ( ) 3 回目 ( )
空試験の指示値	( ) 注 3 )
検出下限値	( ) mg/L 注 4 )

注 1 ) 無機体炭素を除去した後、有機体炭素（TOC）を測定した場合に記入する。

注 2 ) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注 3 ) 標準添加法では記入しない。

注 4 ) 試料中の濃度（mg/L）を示す。

< 試料の保存状況 >

保存状況 保存方法等 保存温度	1．冷暗所保存 2．保存しない（直ちに分析） 3．その他 ( ) 約( )
--------------------	--

分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点	
------------------------------	--

計算式	
-----	--